



札幌市博物館活動センター 情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

No.82
February 2025

窓霜

まど しも 窓霜は空気中の水蒸気すいじょうきが冷たい窓にふれて凍ったり、窓の表面にできた水の膜まくが冷えて凍ることのできる現象です。写真は学芸員の自宅にできた窓霜で、気温や湿度によって毎回模様が異なり、予測できないからこそ、観察のワクワク感があります。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

✿カタバミ・フィーバー✿ 狸小路でカタバミを探してみた

文／学芸員 山崎 真実

札幌市博物館活動センターはその存在と活動をもっと多くの皆さんに知ってもらうために、あの手この手で広報活動をしています。そのためには市民の皆さんがどんなことに興味を持っているのかタイムリーに知ることも必要です。その1つの目安としてホームページのアクセス数も参考にしている、この1年間を見るとアクセス数が多いのは、なんと植物のコンテンツ「カタバミすごいぜ!」なのです(おうちミュージアムに掲載)。



おうちミュージアム
「身近ににいるのに意外と知らない植物
カタバミすごいぜ!」

自然史系博物館で不動の人気は化石か昆虫ですが、当センターのホームページでは植物もなかなか健闘しています! アクセス数が多い理由は分かりませんが、カタバミがとても身近な植物であることも一因だろうと想像しています。ちょっとした「カタバミ・フィーバー」(?)は植物分野の学芸員としても嬉しいことです。

さて、そのカタバミがどんな植物なのかを50字以内で表現すると「小さな草で、葉は三つ葉のクローバーのような形で、花は黄色い桜のようで果実はオクラを小さくした形」といえます(写真)。



緑の葉のカタバミ
(撮影:札幌市内)



赤い葉のカタバミ
(撮影:愛知県)

カタバミは都心部の公園や歩道の植え込みやアスファルトのすき間、小さな鉢植えの中というように、ほんの少しの土があれば生えています。そこで、試しに札幌の中心部である狸小路付近で探してみました。秋深まった10月中旬でも花が咲いている株もあり、葉の色は緑から赤茶色にグラデーションがかかっているもの、株全体が緑のものの2パターンの色がありました。赤茶色っぽくなっているのは、紅葉なのでしょうか。それとも、もともとの色なのでしょうか。

図鑑を見ると、北海道には在来種カタバミ(広義)、エゾタチカタバミ、コミヤマカタバミ、外来種オッタチカタバミ、ムラサキカタバミがあります。さらに、在来種カタバミ(広義)にはウスアカカタバミ、タチカタバミ(ケカタバミ)、アカカタバミなどのいくつかの型が含まれるとありました。これらの違いは毛のある・なしや托葉(葉柄の付け根にある小さな葉状~膜質の部分)など細かな部分を確認しないと分かりません。他に情報はないかと調べると、アスファルトのすき間など都市部に多いアカカタバミの葉が赤紫色(図鑑によっては小豆色と表現)なのは、土より高温になる「コンクリート・ジャングル」の中で、より高温に耐えられるように進化が起きていることが分かってきているそうです。

こうしてちょっと調べただけで小さな植物の背後にもたくさんの情報とまだ解明されていない謎があることが分かり、ただの「どこにでもある植物」が「ちょっとやそつとでは太刀打ちできないすごい植物」だと認識を変えさせられました。そんなふうに好奇心が湧き立った人たちがインターネット上でカタバミを探しているのかもしれない。

狸小路南2条西3丁目で見つけたカタバミ属



今回の簡単な観察だけでは種類の
特定は難しく、次の夏の宿題です。



参考

1.Yusuke Hoshino, Masayuki Maki, Ikumi Dohzono, 2023. Long-styled Variant Decreases Ovule Loss by Hybridization with Short-styled Congener in *Oxalis*. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 74(3):171-176. DOI <https://doi.org/10.18942/apg.202309>

2.大橋広好, 2016. カタバミ科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編), 改訂新版 日本の野生植物 3/バラ科〜センダン科. 140-142ページ. 平凡社.

3.都市の熱さで植物は赤く進化する ―ヒートアイランドへの急速な適応進化を初めて実証―https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20231023-1.html(東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部ホームページ)

◆あなたも“カタバミ・フィーバー”に巻き込まれてみませんか。

上記参考3の研究グループが市民参加型オープンサイエンス「みんなでカタバミプロジェクト」を行っています。
プロジェクトホームページ <https://sites.google.com/kazusa.or.jp/oxalis/>

ホット
コラム展示室につき
寄贈標本の「ねんきん」

○月×日 展示解説員 首藤 昌子

博物館活動センターには、廊下
に展示しているアンモナイト
のように、市民や研究者の方
から寄贈を受けた標本がたく
さんあります。今回は寄贈標本
の中から、超マニアックな生物
を紹介します。

タイトルにある、ねんきん、は
年金ではなく粘菌と書き、その
中でもこの標本(写真)は、変形
菌の1種「ルリホコリのなかま
」です。1〜2mmほどしか
ないので、小さなキノコやカビと
間違われるのですが、実はア
メーバの仲間です。胞子で増える
生物です。柄のついた瑠璃色の
球体は「子実体」という胞子を
持った状態です。しかし、子実
体になる前はまさにアメーバ
のように動き、エサを探して食
べるのです！全く想像ができ

写真：ルリホコリのなかま
標本 No.SMAC-F-1160



コレクション クエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ！

しゅうぞう こ
る部屋の名前を収蔵庫といいます。収蔵庫には化石、岩石、植物、昆虫、動物の骨やはく製など、いろいろな標本がたくさん集められています。標本がカビたり、変形したりしないよう、収蔵庫の中は一定の温度と湿度を保つようにしています。私たち博物館活動センターは大切な標本を百年先、千年先まで届けたいと思っています。

文／学芸員 田中 嘉寛

札幌市博物館
活動センターに
は普段は入れな
いウラガワ(バッ
クヤード)があり
ます。その核とな

標本No.SMAC 2878 ネズミイルカの頭



学芸員と一緒に収蔵庫を探検するうちに、
クジラやイルカについて詳しく知ることができる
動画を作りました！

札幌市のYouTubeチャンネルで公開中！
当センターのホームページか、
右の二次元コードから見てくださいな！



File No.18

絵本の生き物たちが飛び出した!?
出張よみかせ 標本と絵本

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の
自主的活動や、学校との連携など、
さまざまな活動を紹介します。

絵本を通して自然や生き物に興味を持って
もらい、博物館活動センターを知ってもら
うと、昨年9月～10月に子育てサロン等で絵
本の読み聞かせを行い、本の中の生き物が身
近に存在することを実感してもらいました。
参加した親子の大半は当センターを知りませ
んでしたが、今回のイベントをきっかけにセ
ンターにも来館してくれた家族もいました。

当センターの活動内容をもっと知ってもら
い、興味を持ってもらうきっかけを提供す
るために、イベントや体験学習会を実施する
など、札幌の自然史や北海道の自然の魅力
を伝えるべく、今後も市民向けの活動に力を

入れて取り組んでいきます。



写真：絵本に登場する生き物のアクリル標本を持参しました。
小さなお子さんもじっくり観察してくれました！



交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター information

入館料：無料
開館日：火曜～土曜 開館時間：10時～17時
休館日：日曜・月曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）



ホームページアクセス
二次元コード



さっぽろ市
05-D05-24-1211
R6-2-881

発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel：011-374-5002 Fax：011-374-5014
Email：museum@city.sapporo.jp ホームページ：https://www.city.sapporo.jp/museum/



ミュース・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。